

本市を取り巻く環境が刻々と変化中、本計画に基づく施策を着実に推進し、成果を上げるためには、行政経営改革指針に基づき、計画・予算・行政評価などの仕組みを一体的に連動させるとともに、組織を横断して目的や目標を共有し、効率的かつ効果的な行政経営を推進する必要があります。

1.行政経営の考え方

基本構想の実現に向けて、総合計画に基づく施策を着実に推進するとともに、計画の実行段階で、毎年度の事業評価と改善をPDCAサイクルにより行い、行政経営を推進します。

Plan (計画)	総合計画や個別計画に基づき、施策の方向性や目標を明確にし、予算編成、組織体制、人員配置などを通じて、限られた経営資源を適切に配分します。
Do (実行)	計画に基づき、各部局が所管する事務事業を具体的に実施します。
Check (評価)	まちづくり市民アンケート等を通じて施策の進捗状況を把握し、その結果を踏まえて施策評価を行います。これにより、成果や課題を検証し、今後の事務事業の方向性等を検討します。
Action (調整・改善)	施策評価の結果等に基づき、予算編成方針の策定や事務事業の内容・規模の調整等を行い、次年度の経営資源の配分と事務改善につなげます。



2.行政経営の「共通の理念」、「5つの要素」、「職員が大切にしている3つの視点」

本市の行政経営は、市民のために行うものです。

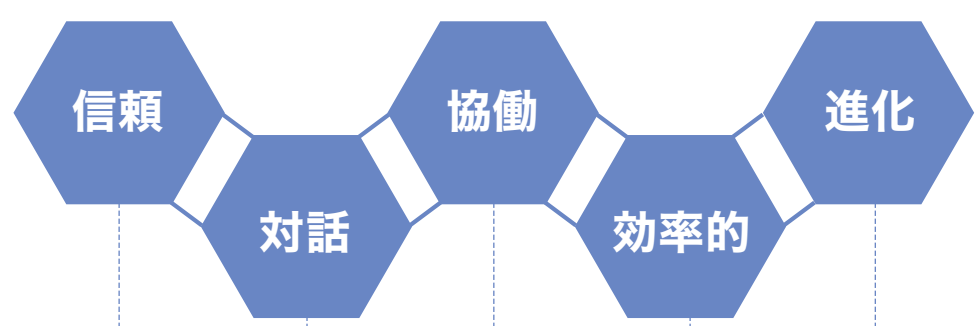
「すべては市民のために」を本市の行政経営の共通の理念とし、この理念のもと、市の行政経営に必要な「5つの要素」と「職員が大切にしている3つの視点」を掲げ、意識改革、業務改革に取り組んでいきます。

また、本市が抱える課題に迅速に対応し、質の高いサービスを持続的に提供するには、継続すべきものと見直すべきものを見極め、思い切って舵を切ることも必要です。常に周囲の変化に目を配りながら、最高のパフォーマンスを発揮します。

行政経営の共通の理念

すべては市民のために

5つの要素



信頼される行政経営
 市政の透明性を高め、市民との信頼関係を築きます。

協働による行政経営
 多様な主体と連携して、ともに課題解決に取り組めます。

進化する行政経営
 現状に満足せず、常に新しい視点や考え方を取り入れて仕事を進めます。

対話を重視する行政経営
 対話を通じて情報を共有し、市民の意見を施策に反映させます。

効率的な行政経営
 限られた資源を最大限に活用し、効率的に行政経営を行います。

職員が大切に3つの視点

地方自治法第2条第14項に規定する「最少の経費で最大の効果」を実現し、市民満足度の最大化を図るため、職員は次の3つの視点を常に意識して業務に取り組みます。

現場起点

すべての改革・改善は現場から

現場の第一線で働く職員は、市民のニーズや現場の課題を最も早く把握できます。

市民の声を直接受け止める立場としての情報収集力や発信力は、改革・改善の出発点です。現場の情報を起点に必要な課題を抽出・改善し、そのプロセスを蓄積してノウハウへと昇華させ、組織力・職員力の向上を図ります。

全体最適

森から木を見よう

各部門がそれぞれに最適を目指す「部分最適」も重要ですが、組織全体の整合性や効率性、品質の一貫性を確保するためには、「全体最適」の視点が必要です。

時代やニーズの変化を的確に捉え、人的資源や財源、時間などの経営資源を適切に配分し、事業の選択と集中を図ります。

成果重視

よい成果は、よいプロセスから

本計画に掲げた将来像の実現には、目標を明確にし、それを全職員で共有することが不可欠です。成功までの道筋(プロセス)を描き、PDCAサイクルを着実に回しながら事業の進捗状況を定期的に確認し、問題点の改善を通じて成果達成につなげます。